

雪氷技術賞を受賞して

新潟電機(株) 石丸民之永

この度、名誉ある日本雪氷学会北信越支部・2001年度雪氷技術賞を戴き、非常に恐縮するとともに大変光栄に思います。有難うございました。受賞対象は「雪氷計測の実用化と高度化に関する貢献」ということで、過去20年間に亘り雪氷測器に携わってきたことが、過大な評価を戴き、嬉しいと同時に身の引き締まる思いを致しております。

私が、雪氷計測で最初に出会ったのは、田村盛彰先生(当時・長岡工高)の作られた「2要素型降雪検知装置」でした。それから数年後、冬期の地下水の過剰取水による枯渇、地盤沈下等が各地で問題となり、散水消雪の自動化は行政の後押しもあって急速に普及し始め、それと同時に弊社の製品も性能が向上してまいりました。特に、1989年に発売した「雪温・降水式、強雪仕様」が大きなインパクトとなり、道路管理者や設備業者、多くのユーザーの信頼を得ることができました。

10数年前から降雪センサーの開発と並行して、防災科学技術センター(当時)の木村忠志先生の御指導をいただき、メタルウェファース式積雪重量計を製作しました。その後、先生にはSPC(飛雪粒子計数装置)・積雪深計と御指導を受けつつ製品のラインアップを増やしてきました。

しかし、それぞれ対象が野外、低温、風、雪の変態などひとすじ縄でいかない諸々の状況下での雪の計測であるため、全く思いがけない事が次々起こりました。例えば、積雪重量計では圧力センサー周辺だけでも「融雪時に収納函が浮力を受けて浮上する事がある」「少積雪寒冷地では、配管は凍土対策がいる」「傾斜面に平地を作って設置したところでは、積雪の極めてゆっくりした移動があるので防止杭がいる」.....等々。その道の専門家から見れば初歩的なことでも私共にとっては手探り状態で、出てきたデータを見てクレームの原因を探るという状況が続きました。使って頂いた研究者がよく我慢して付合ってくれたものと冷や汗の出る思いです。お陰様でクレームに対し、諦めないで最後まで原因を追求する姿勢が自然と身に付きました。その後、木村先生、小林俊一先生(新潟大学)のご指導の下で、弊社の開発した製品を組み合わせ、「雪泥流」の予知計測、北陸・東北新幹線の「積雪気象計測」等、システムとして幅広い分野に使用される事が実現しました。

ものづくりとしては諸先生方の研究成果に多少でも貢献できたことが判ると大変嬉しく、生きがいを感じます。なかでも先般、第41次南極地域観測隊・越冬隊に参加された北海道大学低温科学研究所・西村浩一先生が、SPCを持っていかれ、良いデータが採れたと言う話をお聞きしたときは極低温下での不安があっただけに、それはもう心底嬉しくてその晩一人痛飲しました。5年前に急死された木村先生がおられたらどんなに喜んでもらえたか.....胸に込み上げて来るものがありました。

弊社は、雪氷に特化した製品を開発・販売することを社是としております。雪国に住む人々の生活向上、技術の発展に少しでも寄与できることを願いつつ事業を続けてまいりたいと考えております。会員の皆様には、今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願い致します。最後になりましたが、これまで御指導、ご協力をいただいた防災科学技術研究所雪氷部門、新潟大学積雪地域災害研究センター、鉄道総合技術研究所、中央農研・北陸センター(旧北陸農業試験場)等をはじめ諸機関、諸先生及び新潟電機(株)丸山社長、同僚の皆様に対し深く感謝を申し上げ、御礼の言葉と致します。